

「見ているだけの人」

粕屋東中学校 一年 林田 侑太

ぼくは、夏休み期間中に心を動かす出来事がありました。そして、その出来事から人を助けようとする事の難しさや、実際に人を助ける人のすごさや心の強さを学びました。

夏休み中のある日、ぼくは母とスーパーに買い物に行きました。いつもと同じように買い物していると、突然

「屋上でおじいさんが倒れています！誰か救急車を呼んでください！」

という声が店の中にひびきました。すると、少しずつ店の中がざわつき出して、あわただしくなっていくます。すると今度は

「おじいさんの息がありません！誰かAEDを持ってきて下さい！」

という声がありました。店員さんがAEDを探していたり、近くの男性がAEDを探してあわてていたりしています。もしかしたら、おじいさんが死んでしまうかもしれないという状況の中誰かも分からないおじいさんを助けようとしている人たちがいます。しかし、ぼくはどうでしょうか。店員さんや近くの男性がAEDを探しているのにそれを見ているだけで何もできない。店の中で大声で助けを求めている人がいるのに、周りの空気にもまれて、何もできない。そのときぼくは、何もできない自分がくやして悲しいと思ったのと同時にAEDを探していた店員さんや近くの男性、周りの人に大声でAEDや救急車を呼んで下さいと言っていた人がすごいと思いました。誰も動こうとしない中、自分から動こうとするのはとても勇気がいるから、その姿を見て「こんな人にならないといけないな」と思いました。

この出来事があり、これについて振り返ってみて気付いたことがありました。それは、周りの空気にもまれて人を助けることの難しさです。道德の授業で習っていて何をすべきか分かっているけど、多くの何もしない人がつくりだす場の空気が自分を傍観者、つまり、「見ているだけの人」にするということが、分かりました。そう考えると、その場の空気にもまれて、自分で、悪い状況を良い状況に変えようとする人は、とても勇気があり、人を助けようという気持ちがとても強いんじゃないかと思いました。

そして、これから社会を明るくする人たちはそんな人たちであってほしいし、そんな人であるべきだと思います。本当に人を思う心がある人は、今回の出来事という救急車を呼ぼうとした人やAEDを必死に探した人だと思うので、ぼくもそんな人になって、将来社会を明るくできるような人になれるように、がんばりたいです。